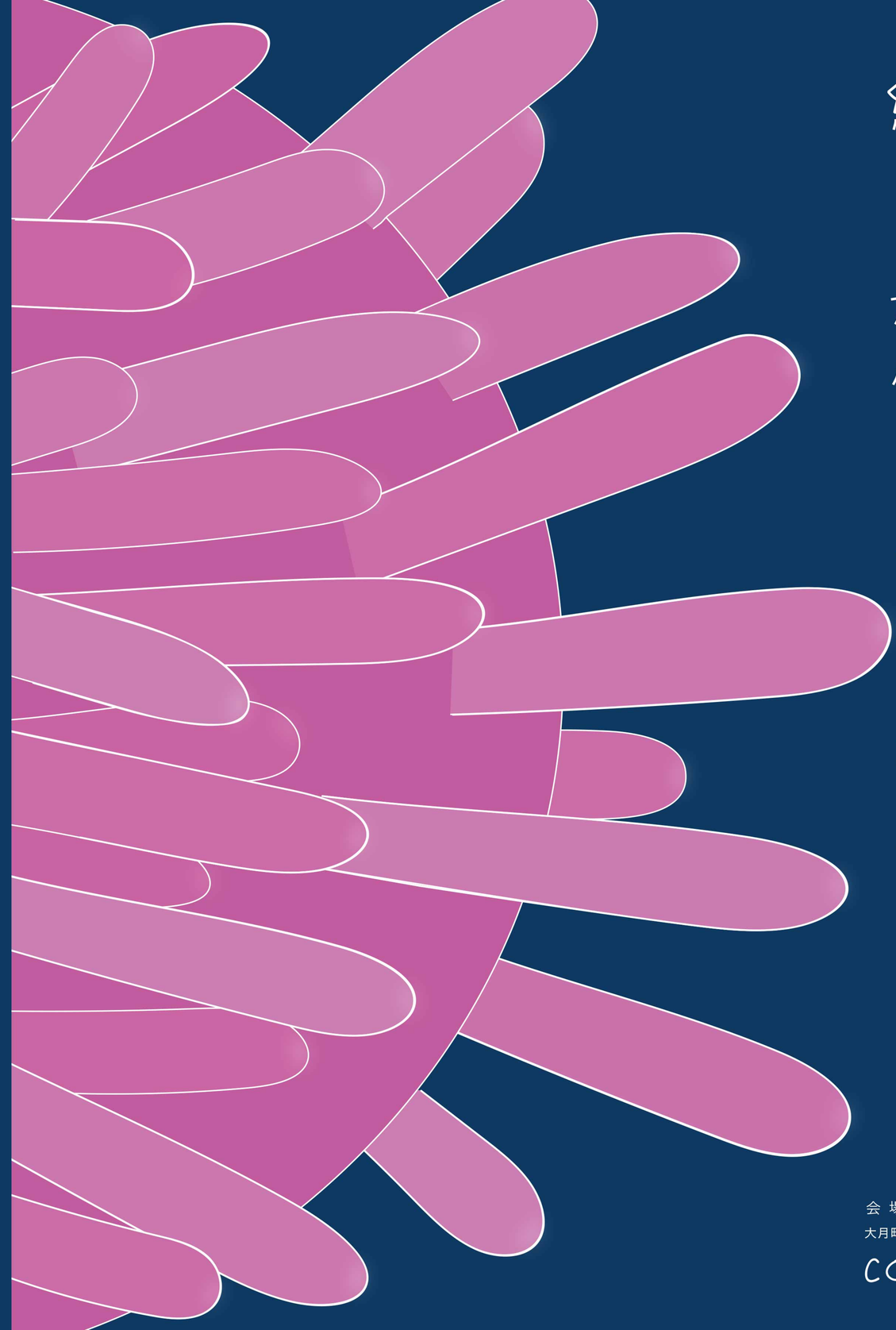
絵になる大月のウニとネオン管の月



OTSUKI CONTEMPORARY ART 2025

会期中イベント

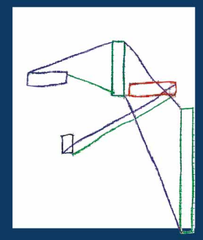
＊記載のないイベントは参加費無料

オープニング　9 / 6 土　於 COSA

PM 1:00 - 2:00　ワークショップ

「四角形の冒険」 / 谷内春子、京都市立芸大大学院生　●定員：10名

まず四角形を描き、それらをつなぐと、あら不思議、立体的な形が現れます。
形が生まれていく（描く）ときの感覚を、実際に体感してみましょう。



PM 2:00 - 3:00　ワークショップ

「トレジャーライト」 / 国谷隆志　●参加費：¥500（材料代）・定員：10名

近くの川に行き、気になる物を拾い集めます。それらに蓄光塗料を塗り、
特製の箱に入れて釘で蓋をします。拾った物は箱の中で光り続けます。

PM 3:00 - 4:00　音楽会

「ギター 音と風景 」 / 山下光鶴（ギタリスト、作曲家）

中世ヨーロッパの民衆音楽とともにあったギターが、大航海時代に海を渡り、南米の地で
また異なる音楽へと変貌していく様を辿りながら、さまざまな音風景をお聴きいただきます。

YAMASHITA Terukaku
18歳で渡独し、カルロ・ドメニコーニ氏に師事。ベルリン芸術大学でクラシックギターと作曲を専攻。以降7年間、ベルリンを拠点にヨーロッパやアジア各地で演奏活動を展開。2020年に帰国後は長崎を拠点に活動。長崎ギター音楽院院長。

出張ワークショップ　9 / 12 金　於 大月町役場1F

PM 2:00 - 4:00

「ウニ顔料で大月町の人を描く」 / 京都市立芸大大学院生

大月町役場に芸大生５人が出向き、町内で採集した素材を使って
似顔絵や人物画を描きます。

クロージング　9 / 21 日　於 COSA

PM 2:00 - 4:00　ワークショップ＆トーク

「水平線の冒険」 / 谷内春子、京都市立芸大大学院生　●参加費：¥500（材料代）・定員：10名

１本の線がやがて 波になり 海になります。それは絵画の始まり。
ウニや岩石など身近にある素材を使って、絵画作品をつくりましょう。

アーティストトーク / 谷内春子、京都市立芸大大学院生

滞在制作のことや作品や大月町の印象など。地元の方々との交流も。

会場：COSA へのアクセス（宿毛駅から）
- バスで40分（高知西南交通清水宿毛線「小才角」下車 徒歩7分）
- 車で30分（R321）

お問合せ　TEL：0880-75-5262（COSA）
MAIL：gal@plus1art.jp（+1art）

詳細はコチラ　www.plus1art.jp

主 催：+1art
共 催：COSA（大月町）
後 援：高知県、公益財団法人高知県文化財団、高知県立美術館
大月町教育委員会、高知新聞社、RKC 高知放送、KSS さんさんテレビ
協 力：くろしお芸術協議会、中地シュウ（海辺の自然史研究舎）

会 場
大月町文化教育
COSA

大月コンテンポラリーアート 2025

絵になる大月のウニとネオン管の月

Paintings with Otsuki Sea Urchins and Neon Tube Moon

9/6 土 – 21 日 AM10 – PM4 OPEN 金·土·日·月

タイトルの『絵になる大月のウニ』は、日本画を専門とする谷内春子と5人の大学院生が大月町の海や山で採集したウニや貝殻、岩石や鉱物から顔料をつくり、それを素材の一部にして日本画を描くという、素材から作品に至る一連のプロセスを表しています。他方、国谷隆志は、細長いガラス管にネオンガスなどのガスを封入し、電流を流して放電させることで発光させるネオン管の作品を展示します。ネオン管は、現在ではLEDの普及により作り手も希少になっていますが、魅力的な光を放つネオン管の愛好家はいまだ絶えません。本展では国谷隆志による「ネオン管の月」をはじめ、なかなか見る機会がないネオン管作品をご覧いただきます。

また、会期中アーティストの指導でワークショップを開催します。大月町内でふだん見かけるものの中には、よく見ると作品の素材になる「宝物」が、あちこちにあります。このワークショップでは、それら「宝物」を発見し、多様な方向から作品づくりの楽しみ方を体感していただけるような試みを行います。

大月町では、過疎化・高齢化が進行する中、地域の魅力を再発見・再発信し、地域住民のつながりを深める新たな取り組みが求められています。

本アートイベントは、地域振興と移住促進の一環として、芸術を通じた地域活性化を目的に開催します。

+1art

谷内春子 TANIUCHI Haruko

1986 京都生まれ
2015 京都市立芸術大学大学院博士（後期）課程修了
現在、京都市立芸術大学美術学部講師

-近年の展覧会

2025「hue hew」4人展（+1art / 大阪）
2024 個展「四角形の空想」（ギャラリー恵風 / 京都）
2024 個展「知覚する風景」（2kwgallery / 滋賀）
2023 FACE2023　入選（SOMPO美術館 / 東京）
2023 個展「公共美術館企画展vol.2」（鴨川、御所、出町商店街、京都市京セラ美術館前 他 / 京都）
2022 個展「Longing for prism」（ギャラリー恵風 / 京都）
2021 個展「Möbius loop」（+1art / 大阪）
2020「日本画・絵画論」3人展、企画：潮江宏三（Art Apace-MEISEI）

《Overlapping Landscape #0-3》麻紙、膠、岩絵具 2025

国谷隆志 KUNITANI Takashi

1974 京都生まれ
1997 成安造形大学 立体造形クラス卒業

-個展

2025「私は熱帯雨林で新種の動物を発見しました。」（+1art / 大阪）
2023 Mix and Match (Ulterior Gallery / ニューヨーク)
2020 Aura (Yutaka Kikutake Gallery / 東京)
2018 Spaceless Space (Ulterior Gallery / ニューヨーク)
2018 Something Red (京都芸術センター 大広間 / 京都)
2015 Channel 6, Deep Projection (兵庫県立美術館)

《Untitled》ネオン管、スチール、アクリル板、変圧器、コード 2025

伊智万莉奈 ICHI Marina

大学院博士課程2回生
沖縄県生まれ
《sea fog》天竺綿布、膠、岩絵具、水干絵具、墨、パステル 2024

藤井歩未 FUJII Ayumi

大学院修士課程2回生
大阪府生まれ
《希求の丘にて》麻布、膠、岩絵具、水干絵具 2024

清水皐生 SHIMIZU Kosei

大学院修士課程2回生
愛媛県生まれ
《circle》膠、岩絵具、水干絵具 2024

長嶺志保 NAGAMINE Shiho

大学院修士課程1回生
広島県生まれ
《猛猫を撃つ》岩麻布、膠、水干絵具 2024

川口聖太 KAWAGUCHI Seita

大学院修士課程1回生
大阪府生まれ
《Blue line No.1》鳥の子紙、膠、岩絵具 2024

支援協力

9/6-21